

夏！

くそのときどきの風景く

節電の夏です。猛暑、酷暑、炎暑と続いては、うちわも役に立ちません。

井戸端のたらいに飛び込んでいた幼き日。共同温泉からの帰りに父と見上げた夏の夜空に、獅子やサソリ、白鳥に乙女、琴などの星座が輝いていたことを懐かしく思い出します。いずれも、どこにでもあつた夏の原風景です。

さて、忙しいことの例えに、「盆と正月が一緒に来たような…」という言葉があります。盆と正月は、「家」に神様を迎える準備で忙しかったことから、特に忙しい様子を表しています。

また、ご先祖（祖霊）のこゝとを盆には「お精霊さん」、正月は「年神」と言い、盆には座敷に特別な棚（精霊棚）を設け、食事を供えます。わが家にもお精霊さん用の棚と食器があり、祖霊の送り迎えからその準備、さらに親戚の接待と、忙しく動き回っていた母の姿が目には浮かびます。



家族で祖霊を迎える

盆と正月は、働きに出ている若者が一時帰宅する「藪入り」の時期でもありました。嫁いでいる女性も、この時ばかりは実家への帰省が許されたそうです。そのためか、わが家でも盆の15日は、母の実家に帰るのが恒例でした。子や孫でいつもより狭く感じた母の実家で、一家が忙しくも楽しい語らいの時間を持った至福の時でした。

今日では、盆と正月に海外旅行なども増えましたが、藪入り⇨帰省の風習はしっかり残っています。汗だくで親元へ急ぐ姿に日本人の心を感じ、ホッとさせられる故郷の風景でもあります。

指宿市長 豊留悦男